# 2023年度
# 陸前高田プロジェクト実施報告

## テーマ

「陸前高田市の歩みから持続可能な都市について学び、
地方都市が持続可能な都市となるために自分たちにできることを考えよう」
-- SDGs「11 住み続けられるまちづくりを」の視点から--
《Rikuzentakata × SDGs × YOU》

## 参加者

立教大学13名、香港大学5名、米国よりスタンフォード大学、ドレイク大学
テネシー大学ノックスビル校バージニア・コモンウェルス大学、カナダよりマギル大学
各1名　計23名

## 実施日

2023年7月1日、8月23日～29日

## プロジェクト概要

立教大学および海外の大学からの参加者全員で岩手県陸前高田市を訪問し、4泊5日のフィールドワークを行いました。

陸前高田市では震災遺構や復興祈念公園、市立博物館、再建した市内中心部の様子等を視察したほか、市内で事業を営む複数の方々にご協力いただき、これまでの歩みや現在の取り組みについてお話をうかがいました。震災復興やまちづくりについての学びを踏まえて、テーマに基づきチームでディスカッションを重ねました。また、今年は4年ぶりに地元のご家庭にグループで宿泊する民泊も再開し、家族の一員として交流する貴重な経験をさせていただきました。

最終報告会では、SDGs Goal 11「住み続けられるまちづくりを」の視点を軸に、フィールドワークで学んだこと、グローバルコミュニティや自分が暮らすコミュニティの課題と持続可能性への取り組み、自分自身が取り組むべきことなどについてグループごとに発表しました。

## プロジェクト内容

### 事前研修① 7/1（立教生のみ）

本プロジェクトに取り組むにあたり、各自の目標確認、陸前高田市や東日本大震災について理解を深めるための下調べなど、現地研修に向けて準備を進めました。

### 事前研修② 8/23（@立教大学）

立教生と海外大生が初対面。アイスブレイクで打ち解けた後、SDGs Goal 11「住み続けられるまちづくりを」の考え方や、現地研修において効果的な学びを得る考え方について理解を深めました。

## 現地研修@陸前高田市

### Day1 [8/24]

現地研修1日目。いよいよ陸前高田へ出発。東北新幹線に乗り一ノ関で下車後、バスに乗継いで陸前高田市に到着しました。津波の被害を受けた海岸エリアに開設された津波伝承館を見学後、復興祈念公園や防潮堤、奇跡の一本松、震災遺構である旧気仙中学校を視察しました。

この日の夜は、2019年以来4年ぶりに、「民泊体験」として数人のグループに分かれて市民の方のご自宅に宿泊させていただきました。海外大生はもちろん、立教生にとっても陸前高田市の方のお話を直接聞き、地元の生活を体験することができた濃密なひとときとなりました。

## Day2 [8/25]

現地研修2日目。民泊でお世話になったホストファミリーと別れを惜しんだ後、陸前高田グローバルキャンパスへ。元市役所都市計画課勤務で現在はほんまる株式会社に勤める永山様から、震災復興から新しいまちづくりに取り組む陸前高田市のお話をうかがいました。

その後、震災直後の市民を元気づける拠り所として2011年8月に開設されたコミュニティカフェ「りくカフェ」を訪問。ヘルシーなランチをいただいた後、震災後の市民コミュニティ構築に貢献してきた運営メンバー、鵜浦様と吉田様からお話をうかがいました。

続いて2022年11月に再開した市立博物館へ。震災により壊滅的な被害を受け、発災から11年強の年月を経ての開館です。2015年に陸前高田へ移住された学芸員浅川様より、陸前高田の自然の豊かさや歴史などの魅力とともに被災した資料の修復作業などについて教えていただきました。

## Day3 [8/26]

グローバルキャンパスにて、歴史ある醸造業者「八木澤商店」の河野社長の講話をお聞きしました。津波による醤油蔵の消失からの復活、震災直後から新しい雇用機会を作り続ける河野社長は、自社再建だけでなく持続可能なまちづくりにも精力を注いでいます。

午後は広田町の地域交流の拠点「長洞元気村」へ。事務局長の村上様に、震災当時のお話を聞かせていただきながら、震災時に直面する様々な問題や人々の判断について実践的に学ぶ「クロスロードゲーム」を行っていただきました。ランチは元気村の「なでしこの会」の皆さんが用意してくださった郷土料理を味わいました。

## Day4 [8/27]

500年以上の歴史をもつ「普門寺」へ。震災供養のために多くの方の手により作られた五百羅漢や願い桜（吊るし雛）などを拝観しました。副住職の熊谷晃生様より、地域に寄り添うお寺の歩み、震災後のお寺の在り方などについてお聞きしました。

午後は「橋勝商店　和笑輪（わわわ）」へ。津波により被災してしまった卸問屋から、環境やまちづくりに配慮した総菜店に転換したオーナーの橋詰様より、料理の提供だけではなく、人が集まるコミュニティづくり、子育て中の母親やしょうがい者が働く場所の創出、プラスチックゴミの削減、SDGs推進に取り組むお話をうかがいました。

その後グローバルキャンパスに移動。屋外に展示されている仮設住宅体験館を見学。実際に仮設住宅で生活されていた方より体験談もうかがいました。続いて、陸前高田しみんエネルギーの大林様から講話をいただきました。地域電力会社として、地元の自然エネルギー発電を通して、地域の持続可能性・活性化を推進する先進的な取組みを目指されています。

陸前高田での最後の夜は”発酵”をテーマにした商業施設「CAMOCY（カモシー）」での交流会。「八木澤商店」の河野社長もオープンに尽力されたCAMOCYで、陸前高田に暮らす若者と食卓を囲み、会話を楽しみながら地元素材と発酵技術が織りなす美味しい料理をいただきました。

## Day5 [8/28]

5日目、現地研修最終日。グローバルキャンパスにて、現地研修での学びからの考えをグループごとに話し合いました。テーマのSDGs Goal 11を考えるにあたり、4つの概念（包摂性[inclusive]／安全性[safe]／回復力[resilient]／環境の持続可能性[environmentally sustainable]）の中からグループごとに特に注目する観点を1つ選び、これを軸として考えをまとめていきました。そして名残惜しくも東京へ。

## ⑤最終報告会・振り返り 8/29（立教大学）

**最**終日8/29は最終報告会。立教生と海外大生混合の5グループによる発表が行われました。陸前高田の震災復興やまちづくりに関して学び意見交換した内容をふまえ、SDGs Goal 11の観点から、グローバルコミュニティや自分たちが暮らすコミュニティが抱える課題を再認識し、各都市が持続可能な都市となるために自分たちには何ができるのか、グループで話し合った結果を発表しました。これまでお話をうかがった陸前高田市の方々にもオンラインでご参加いただき感想や考えを共有いただきました。

## 2023 陸前高田プロジェクト フォトアルバム

プログラムの様子はフォトアルバムでも紹介しています！

[More Pictures here! ↓]

## 発表内容

### Group 1
**Key Attitudes for Recovery**
**復興に対する重要な姿勢**

陸前高田の人々が震災後の復興を乗り越えて来たなかで、どのような姿勢や考え方がキーポイントとなったのかを、講話や視察から考察しました。「今」を生きる上で人々の重要な活力となる「日々のいきがい」を見つけること、そして特長のあるまちとして住民の帰属感を高め、人口流出を防ぐ次世代につなげるまちづくり。この2点が大切であると考えました。

### Group 2
**Building Resilience: Rikuzentakata's Journey Towards SDG 11**
**レジリエンスの構築：SDGs11に向けた陸前高田の旅**

「陸前高田においてのレジリエンスとは？」という問いに複数の側面から考察しました。経済面からはリスクの分散や被災地の雇用創出、精神面からはコミュニティにおけるサポートや経験の伝承など努力の積み重ねが強さの創出につながると考えました。

## Group 3

### A Study of Resilience in Rikuzentakata

「災害に強いまち」とは何か、陸前高田の復興が誰によって、どのようになされてきたのかを整理しながら考えました。コミュニティの力強さによって都市はより強くなり、災害から再起する力が生み出されるのだと考えました。

## Group 4

### Resilience in Rikuzentakata ～陸前高田の復興～

震災後の事例から、陸前高田市に住む個人とコミュニティが互いに「希望」「生きがい」「つながり」「生命力」を高め合っていることを見い出し、これにより同市は復興を成し得たのだと考えました。復興において「個人」と「社会/コミュニティ」が相互に作用することが大切だと発表しました。

## Group 5

## Inclusivity 包括性（ほうかつせい）

「コミュニティ開発において、包摂性とは何か？」を軸に、異なるバックグラウンド、経験、アイデンティティを持つ人々、すべての世代が参画し貢献できる社会を実現するための課題と考察を行いました。また、東京、香港、アメリカの現状を比較しながら包括的な地域ビジネスの機会について考えました。